

## 2012年度 平和活動担当者連絡会研修会報告

開催日時 2013年2月23日(土) 10:00~12:30

見学先 明治大学平和教育登戸研究所資料館

参加者 コープとうきょう(宮本陽子) パルシステム東京(岩崎陽子、石田篤史) 東都生協(大出友記子、長尾陵) 東京南部生協(関根明美、青木良二) 全労済東京都本部(中野恵造) 日本生協連(山田浩史) 東京都生協連(伊藤、川延)



今年度の平和活動担当者の研修は明治大学平和教育登戸研究所資料館を訪ね、旧日本陸軍の秘密戦を担った戦争遺跡をたどりました。明治大学生田キャンパス敷地内の遺跡と資料館をガイドの方の説明を聞きながら見学し、かつてここに存在した戦争の確かな痕跡を心に留めました。

### スケジュール

- 10:00 生田駅集合
- 10:10 明治大学敷地内での遺跡めぐり
- 10:40 資料館内見学
- 11:45 見学終了・学食にて昼食
- 12:40 解散

### 登戸研究所とは・・・

旧日本陸軍が秘密戦のための兵器・資材を研究・開発するために設置した研究所で、ここでは防諜(スパイ防止)・諜報(スパイ活動)・謀略(破壊・かく乱活動・暗殺)・宣伝(人心の誘導)のためのさまざまな秘密戦兵器が開発されていた。

正式名称は「第九陸軍技術研究所」であるが、外部にその研究・開発内容を知られないために地名を冠した「登戸研究所」と呼ばれ、その存在も秘密となっていた。研究員として優秀な民間人が集められ、秘密ながら地域も巻き込んだものであった。

敗戦とともに閉鎖されたこの研究所の跡地を1950年に明治大学が購入し生田キャンパスが開かれた。研究所建物は保存・活用して、ここで行われたことがらを後世に残し、語り継ぐために資料館を建設した。

館内は、5つの展示室に分かれ、研究所組織・運営体制と研究内容、終戦前の移転から戦後の流れを紹介し、貴重な資料と隠された事実を伝えている。



### 弥心神社

(現 生田神社)

かつて研究の神も祭られ、秘密の研究所の中の憩いの場であった。

1988年、元所員によって境内に研究所跡碑が建てられた。研究所の存在事実を忘れまいとする心情を伝えている。



大学敷地内には戦中に建立された動物慰霊碑もあり、その碑の裏に刻まれた登戸研究所の名によりこの研究所の存在がはっきりとすることになった。



### 風船爆弾

和紙をこんにやく糊で張り合わせて作られ、爆弾を載せてアメリカへ放球された。高度維持装置もついており、その制作には多くの女学生が動員された。

### 偽札製造

日中戦の長期化と中国経済を混乱・疲弊させる目的で大変精巧な偽札をばらまいた。しかし中国国内で急激なインフレが進み、製造された偽札では用をなさなくなり効果はなかった。



戦局の悪化により大本営が長野・松代へ移転・転進する中、この研究所も長野方面へ移転する。そして敗戦後証拠隠滅されたが、研究員はアメリカより尋問を受け、技術協力することで免罪になったとみられる。そして秘密の技術(生物兵器や謀略戦指導など)はそのまま戦後に受け継がれてしまった。

80年代、高校生の平和活動により事実が掘り起こされ、元所員の伴繁雄さんも沈黙を破り語り始めた。後に伴さんは「陸軍 登戸研究所の真実」を著した。

### 参加者の感想



- \*ガイドもとてもわかりやすく、パンフレットも充実していた。
- \*被害にあった場所とは違う視点での戦跡を見られてよかった。
- \*旧施設の物も網羅して新しい資料館がとてもよくできていたと思う。新宿の戦跡とのつながりや、時代の動きやさまざまなつながりもよく見えた。多くの方に見てもらいたい。
- \*断片的な知識がここでつながったように思った。
- \*広報してみんなに紹介したい。